



早寝早起き・晴耕雨読。
私らしい暮らしに還れました。

酒井千里さんは、京都の一流ホテルでの接客業を皮切りに、「面白そう」なものにハマりのめり込み、都会での日々を楽しみ尽くした。

藍染めとの出会いから着付けを極め、オーガニックなコスメを知ってエステティシヤンの資格を取る。体のことや食べ物のことに興味を持った時、故郷・泊が魅力あふれる町であることに気づいた。

「空き家バンク」で古民家を見つけ、Uターンを決めたのは、2018年の秋。父からの引越祝いには、なんと「耕運機」だ。畑で悪戦苦闘していると、「何植えるだあ〜え？」今なら、これ植えない」と近所の人たちが気軽に声をかけてくれる。

花の苗を持ってきてくれたと思えば、翌日には庭の隅に植えてくれ、名札まで立ててくれる。「やさしいんです。かと言って押しつけがましくない」

着物のためにあれこれ髪型を工夫していたが、思い立って金髪のショートに。「そしたら色合わせがラクになって。敬遠していた色もバッチリ着られるようになりました」

トレードマークになり、遠くからでも知り合いが手を振ってくれる。

「畑でちゃんとモノが作れて、着付けやエステの仕事もマイペースで続けていければ」と、緩めの泊時間を満喫している。

コンビニまでは車で10分。不便も楽しむ余裕ができた。

「日の出近くに起きて、夜更かしもなし。ネオンは見えなくなっただけ、きれいな星が降るのがよく見えるようになりました」

エステティシヤン・着物着付師

酒井千里



ゆ
う
ゆ
う、
ゆ
り
は
り
ま